marantz®

Model PM-11S2 取扱説明書

Integrated Amplifier

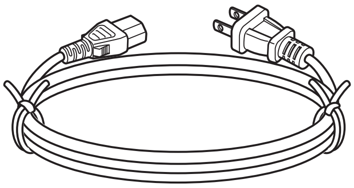
マランツのステレオインテグレーテッドアンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用の前に、この取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社サービスセンターにお問い合わせください。

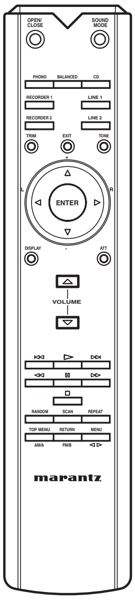
■ 付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品が揃っていることをご確認ください。

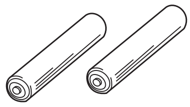
- 電源コード



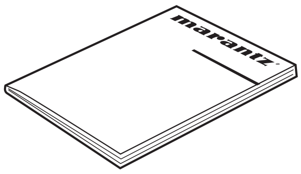
- リモコン



- 単 4 乾電池（2 本）



- 保証書（箱に貼付）
- 取扱説明書（本書）



目次

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

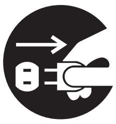
絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

安全上のご注意

警告

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。
- この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は50Hz地域または60Hz地域でご使用できます。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
  この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
- エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

安全上のご注意

注　意

分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。
- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス＋とマイナス－の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災･けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ご不要になった電池を廃棄する場合は､テープなどで絶縁し､各地の地方自治団体の指示（条例）に従って火気のない場所に処分してください。
- 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けて下さい。

電源プラグをコンセントから抜く

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- この機器または電池が入ったリモコンを次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
  窓を閉めきった自動車の中
  直射日光が当たる場所
  火や暖房器具など熱を発生する機器の近く
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス＋端子とマイナス－端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

安全上のご注意

注　意

- この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。
- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。
- 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池が液もれしている場合は、ただちに電池を処分してください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。
  ケース内に付着した液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

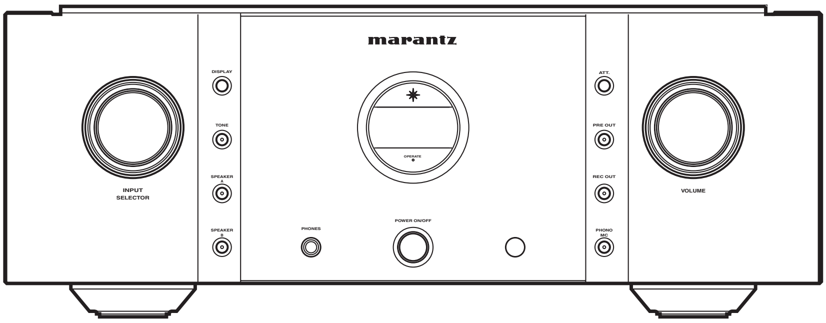
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

高音注意

- 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外の部分は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面や高温注意マークの周辺は高温になりますので絶対に触れないでください。

AMP_080708F1

主な特長



本機はマランツのフラグシップモデル SC-7S2/MA-9S2 のコンセプトを受け継ぎ、上級モデル SC-11S1/SM-11S1 で築いた最新のテクノロジーを取り入れたインテグレーテッドアンプです。

● HDAM®SA3

上級機 SC-11S1/SM-11S1 に搭載されている最新の HDAM®SA3 を搭載しました。HDAM®SA3 は旧バージョンの HDAM®SA2 よりも温度安定度を向上させ飛躍的なハイスピード化をも実現しました。本機では電流帰還型の PHONO イコライザー、バランスバッファー、入力バッファーなどにこの HDAM®SA3 を多数使用しています。

入力アンプ部

● コンスタント・カレント・フィードバック型 PHONO イコライザー

上級モデル SC-11S1 に搭載されたコンスタント・カレント・フィードバック型の PHONO イコライザーを搭載しました。NF 型 PHONO イコライザーと CR 型 PHONO イコライザー両方式の長所を併せ持つマランツ独自の方式で MM カートリッジ及び MC カートリッジに対応します。

● 電流帰還型バランスバッファーアンプ

スーパーオーディオ CD プレーヤーや D/A コンバーターなど優れたバランス出力を持つ機器からの信号を忠実に伝送するため,HDAM®SA3 を駆使した電流帰還型バランスバッファーアンプを搭載しました。

● 全ライン入力端子専用入力バッファーアンプ

CD、LINE 1、LINE 2、RECORDER 1、RECORDER 2 全ての入力端子に HDAM®SA3 で構成した入力バッファーアンプを搭載しました。これらのバッファーアンプは各入力ソース間の相互干渉を防ぎ、入力ソースからの信号を忠実に伝送します。

プリアンプ部

● リニアコントロール・ボリューム

SC-7S2 のデザインコンセプトを踏襲したリニアコントロールボリュームを搭載しました。Wolfson 社 WM8816 と HDAM®SA3 を組み合わせ、更に S/N 比を向上させました。0 〜ー100dB の範囲を± 0.5dB ステップでスムーズにコントロールすることができます。

● トーンコントロールアンプ

BASS(低音)と TREBLE(高音)を 2dB ステップで± 8dB の範囲で調整可能な電子式トーンコントロールアンプを搭載しました。リモコン操作で L/R チャンネル別々に調整することができます。

パワーアンプ部

● 2 アンプ構成

MA-9S2 のデザインコンセプトを踏襲しボルテージアンプとパワーバッファーによる 2 アンプ構成としました。2 アンプ構成にすることでパワーバッファーが強力にスピーカーをドライブし、スピーカーからの逆起電力の影響をも遮断します。ボルテージアンプは超低歪でパワーバッファーをドライブします。

電源

● チョークインプット型電源

整流回路で発生する高調波ノイズや外部からの高周波ノイズを徹底的に排除するため、大容量平滑コンデンサーを使用したチョークインプット型電源回路を搭載しました。チョークインプット型電源回路は入力アンプ部とプリアンプ部にクリーンな電源を供給しています。

機能

● BI AMP モード

マランツが提案したコンプリートバイアンプ接続はこれまでにない音場空間を再現しました。そのコンプリートバイアンプは PM-11S2 でも可能です。2 台の PM-11S2 をそれぞれモノラル・インテグレーテッドアンプとして働くバイアンプモードとし F.C.B.S. で連動動作します。

● F.C.B.S.

フローティング・コントロール・バス・システムは最大で 4 台までの PM-11S2 を接続して連動動作させる機能で、コンプリートバイアンプやマルチチャンネルなど多彩な用途で使用することができます。また、接続した複数の PM-11S2 間でアースループが生じないため音質への悪影響がありません。

● ディスプレイ

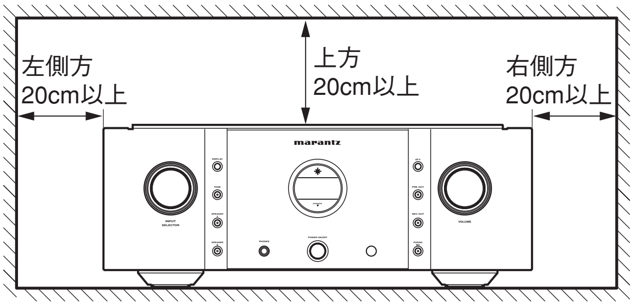
本機は入力ソースおよび音量を表示するディスプレイに LCD(液晶表示板)を採用しました。他の方式の表示板に比べ駆動電力が少なく輻射ノイズが小さいため音質への影響が極めて小さくなっています。

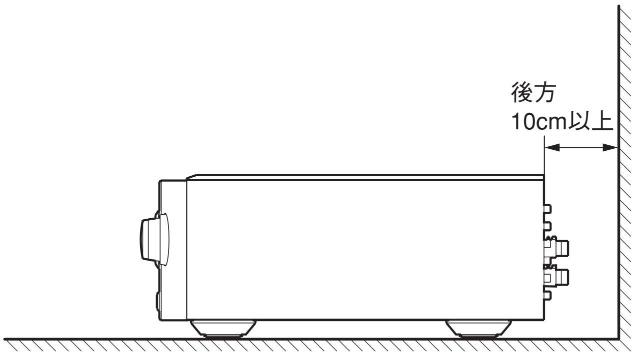
ご使用の前に

設置場所

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。

- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所
  放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。





■ 上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。通風孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

■ ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。

■ 電源コードの取扱い

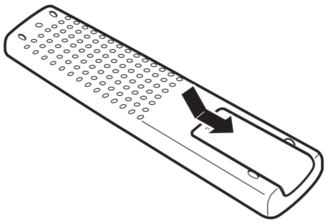
- 濡れた手で触れないでください。
- 電源コードは、かならずプラグを持って抜いてください。
  コードを強くひっぱったり、折曲げたりしますと、コードがいたみ、感電や火災の原因になります。
- お出かけ前には、かならずプラグを抜く習慣をつけましょう。
- 製品に同梱している電源コードは、同梱されている製品のみ使用できます。同梱している製品以外には、この電源コードを使用することができません。

リモコンの使用について

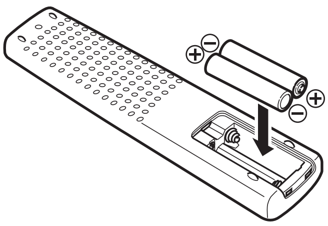
■ リモコンに乾電池を入れる

付属のリモコンを最初にご使用になる前に、リモコンに乾電池を入れてください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

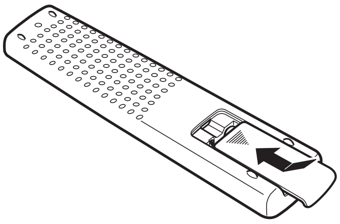
1. 裏ぶたをはずします。



2. 電池の ⊕⊖ を正しく入れます。



3. カチッと音がするまでしめます。



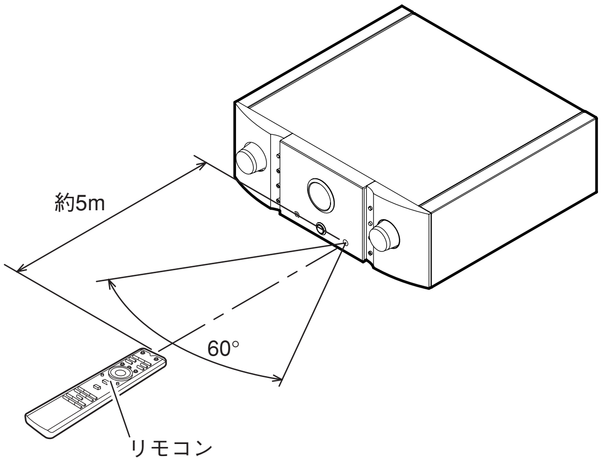
● 乾電池の取り扱い方について

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。
- 乾電池のプラス ⊕ とマイナス ⊖ 向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って処理してください。

■ リモコンの使用できる範囲

リモコンと本機の操作可能範囲は下図のとおりです。



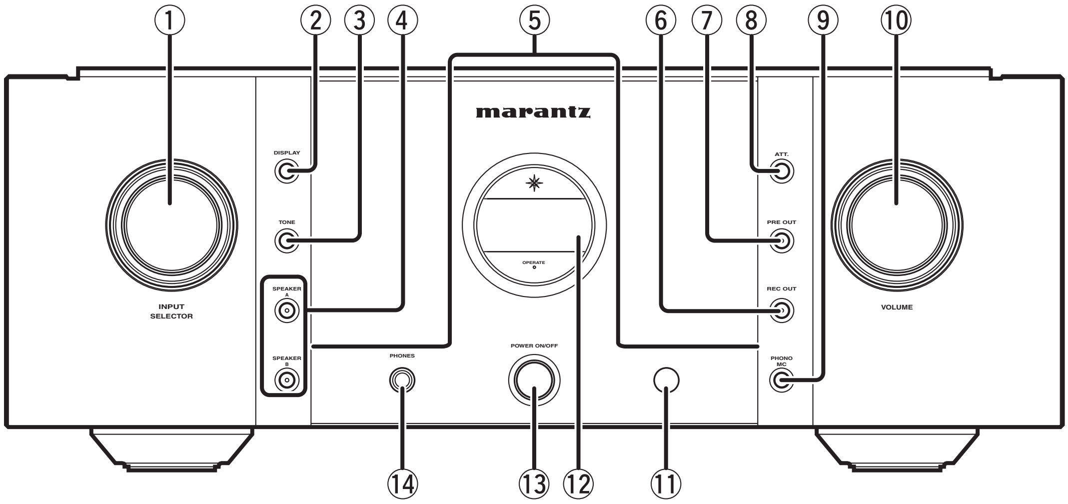
● 使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

各部の名称

前面



① INPUT SELECTOR つまみ

再生／録音する入力ソースを選択するつまみです。
選択した入力ソースはディスプレイ ⑫ に表示されます。

② DISPLAY ボタン

ディスプレイおよびイルミネーションランプを点灯／消灯させるボタンです。
イルミネーションランプの設定のしかたは 28 ページを参照してください。

③ TONE ボタン

低音と高音のトーンコントロールを ON/OFF させるボタンです。
BASS TRIM 調整のしかた（27 ページ）または **TREBLE TRIM 調整のしかた（27 ページ）**を参照してください。

④ SPEAKER A / B ボタン

後面パネルの SPEAKER SYSTEMS A および B 端子に接続されているスピーカーの出力を ON/OFF するボタンです。ヘッドホンをお使いになるときはスピーカー出力を OFF してください。

⑤ イルミネーションランプ

スイッチボタン部を青い光で照らします。DISPLAY ボタンを押して点灯／消灯を切り替えることができます。
イルミネーションランプの設定のしかたは 28 ページを参照してください。

⑥ REC OUT ボタン

後面パネルの RECORDER 1 と RECORDER 2 の各 OUT 端子に出力する信号を ON/OFF するボタンです。
入力ソースに RECORDER 1 が選択されていると RECORDER 1 の OUT 端子に信号は出力されません。また、入力ソースに RECORDER 2 が選択されていると RECORDER 2 の OUT 端子に信号は出力されません。

⑦ PRE OUT ボタン

背面パネルの PRE OUT 端子からの出力信号を ON/OFF させるボタンです。

⑧ ATT. ボタン

音量をワンタッチで減衰させるボタンです。**減衰量の設定のしかた**は 28 ページを参照してください。

⑨ PHONO MC ボタン

PHONO イコライザーの設定を MC または MM に切替えるスイッチです。
お使いになるカートリッジのタイプに合わせて正しく設定してください。

⑩ VOLUME つまみ

音量を調整するつまみです。音量はディスプレイ ⑫ に表示されます。つまみをゆっくり回すと 0.5dB ステップで微調整することができ、つまみを早く回すと変化量が大きくなります。

⑪ 赤外線受光窓

付属のリモコンから送られるコントロール信号を受光する窓です。

⑫ ディスプレイ

選択した入力ソース名や音量および設定状況を表示します。

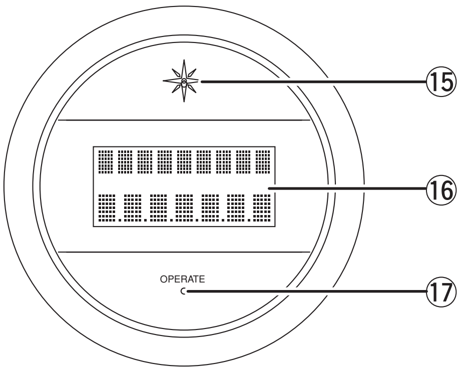
⑬ POWER ON/OFF スイッチ

電源を ON/OFF するスイッチです。スイッチを押すと電源が ON になり、ディスプレイ ⑫ 内の青いインジケーターが点灯します。もう一度スイッチを押すと電源が OFF になります。

⑭ PHONES ジャック

ステレオ標準プラグのヘッドホンを接続するジャックです。

ディスプレイ部

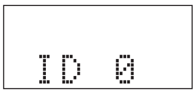


⑮ 電源インジケーター

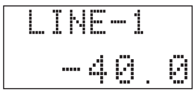
電源が ON しているときに青く点灯します。

⑯ ディスプレイパネル

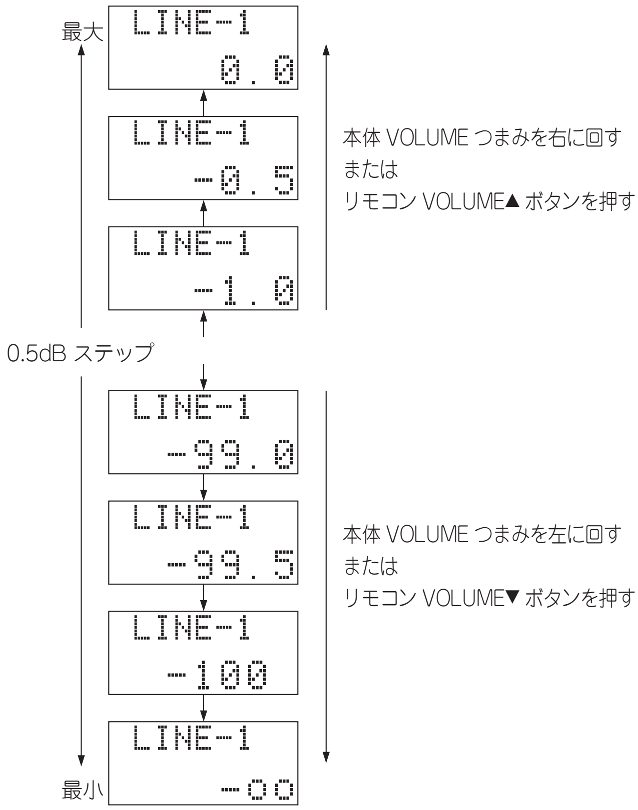
電源 ON すると、約 3 秒間は設定された ID 番号を表示します。



その後、上段には入力ソース名が表示され、下段には音量を表示されます。音量は減衰量(単位 dB)で表示されます。



VOLUME インジケーター音量表示



また、左右のレベルバランス調整時は設定値を表示します。

LEVEL TRIM 調整のしかたは 26 ページを参照してください。

その他、動作に応じ各種メッセージが表示されます。

⑰ OPERATE インジケーター

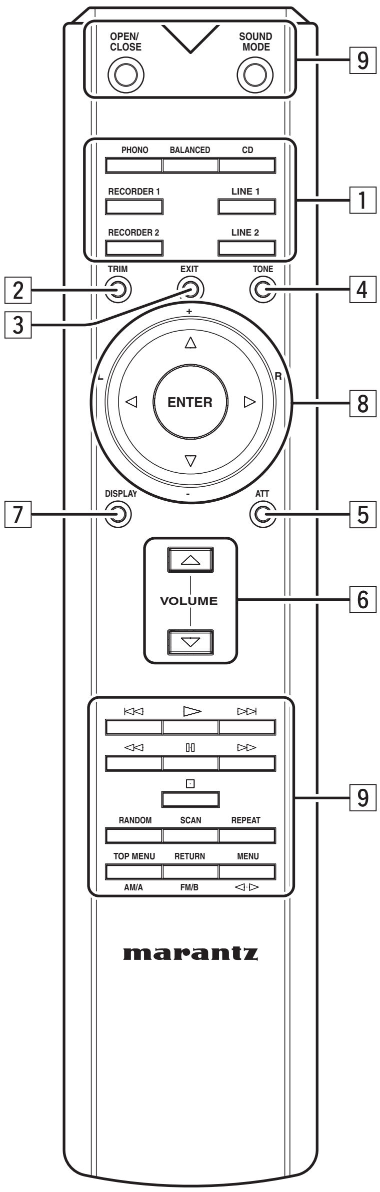
本機の動作状況を表示するインジケーターです。
ID 番号が“0” の単体動作時は赤く点灯します。また、F.C.B.S. で複数台を接続した場合、ID 番号が“1” のマスターのみ赤く点灯します。このインジケーターが赤く点灯していないスレーブのアンプでは、連動する機能を操作することはできません。

F.C.B.S. については 24 ページを参照してください。

保護回路が動作した時は、赤く点滅します。

リモコン

このリモコンは本機とリモコン受光窓の付いているマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーをコントロールすることができます。リモコン操作によりコントロールできる内容が異なる場合もありますので、組み合わせる機器の取扱説明書も参照してください。



1 INPUT SELECT のボタングループ

再生する入力ソースを選択するボタンのグループです。

2 TRIM ボタン

各トリム調整を開始するボタンです。(26 ページ)
F.C.B.S. で複数台を連動動作している場合はトリム調整するアンプを選択します。

3 EXIT ボタン

各トリム調整が完了し、トリムモードを終了するボタンです。

4 TONE ボタン

トーン(BASS/TREBLE) コントロールを ON/OFF するボタンです。

5 ATT. ボタン

音量をワンタッチで絞るアッテネーターボタンです。
(28 ページ)

6 VOLUME ボタン

▲ : 音量を大きくするボタンです。
▼ : 音量を小さくするボタンです。

7 DISPLAY ボタン

ディスプレイを点灯／消灯するボタンです。

8 カーソルボタンのグループ

トリム調整モードの時

調整するチャンネルを選択およびレベルを調整するボタンとして使用します。

ENTER：LEVEL／BASS／TREBLE の各トリムモードを選択するボタンです。
▶ / R　：Rch のトリム調整を選択するボタンです。
◀ / L　：Lch のトリム調整を選択するボタンです。
▲ / ＋　：トリム調整レベルを大きくするボタンです。
▼ / ー　：トリム調整レベルを小さくするボタンです。

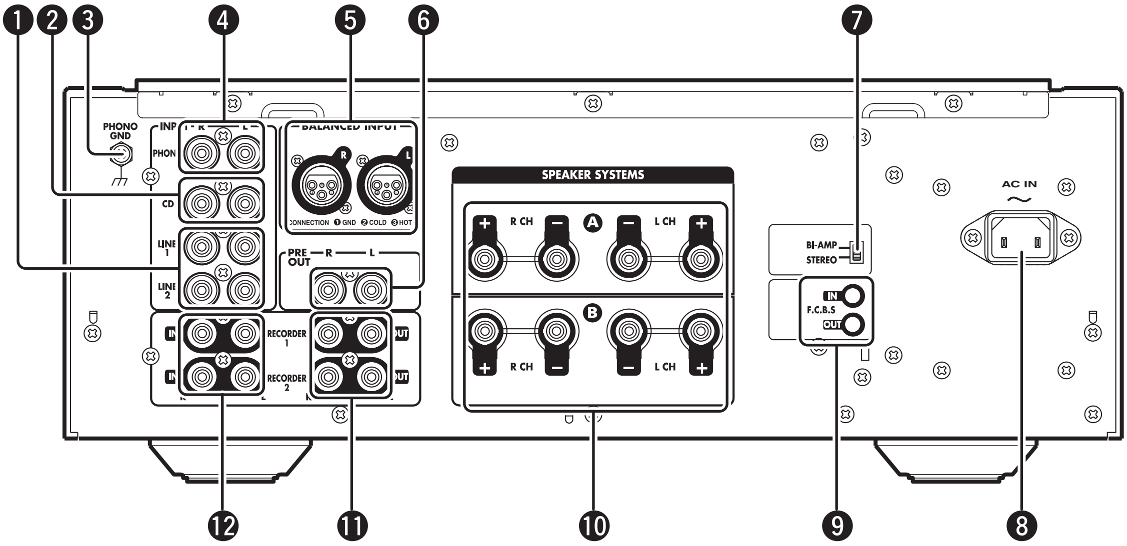
トリム調整モード以外の時

▶ / ◀ / ▲ / ▼ / ENTER：マランツ製 DVD プレーヤーなどメニュー画面での設定項目を選択するボタンです。
対応するマランツ製品の操作については 19 ページの表および組み合わせるマランツ製品の取扱説明書を参照してください。

9 プレーヤーなどを操作するボタングループ

マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどを操作するボタンのグループです。
対応するマランツ製品の操作については 19 ページの表および組み合わせるマランツ製品の取扱説明書を参照してください。

背面



❶ LINE 1/LINE 2 入力端子
チューナーや DVD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。

❷ CD 入力端子
スーパーオーディオ CD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。

❸ PHONO GND 端子
レコードプレーヤーからのアース線を接続してください。

❹ PHONO 入力端子
レコードプレーヤーに接続する端子です。
MC および MM カートリッジが使用できますので、ご使用になるカートリッジに合わせて前面パネルの PHONO MC ボタンで設定してください。

❺ BALANCED 入力端子
スーパーオーディオ CD プレーヤーなどのバランス出力端子と接続する端子です。

❻ PRE OUT 端子
他のメインアンプやアクティブサブウーファーの入力端子に接続する端子です。前面パネルの PRE OUT ボタンで出力信号を ON/OFF することができます。

❼ AMP MODE スイッチ
STEREO： 通常の 2 チャンネルステレオアンプとして使用する時に設定します。
BI-AMP： コンプリートバイアンプで使用するときに設定します。
BI-AMP モードについては 25 ページを参照してください。

❽ AC IN 電源コード接続端子
付属の電源コードで電源コンセントに接続してください。使用できる電源電圧は AC100V で 50Hz の地域および 60Hz の地域です。

❾ F.C.B.S. IN/OUT 端子
本機を最大 4 台まで接続して連動動作させるときに使用する端子です。使い方および接続方法は **F.C.B.S. について**（24 ページ）を参照してください。

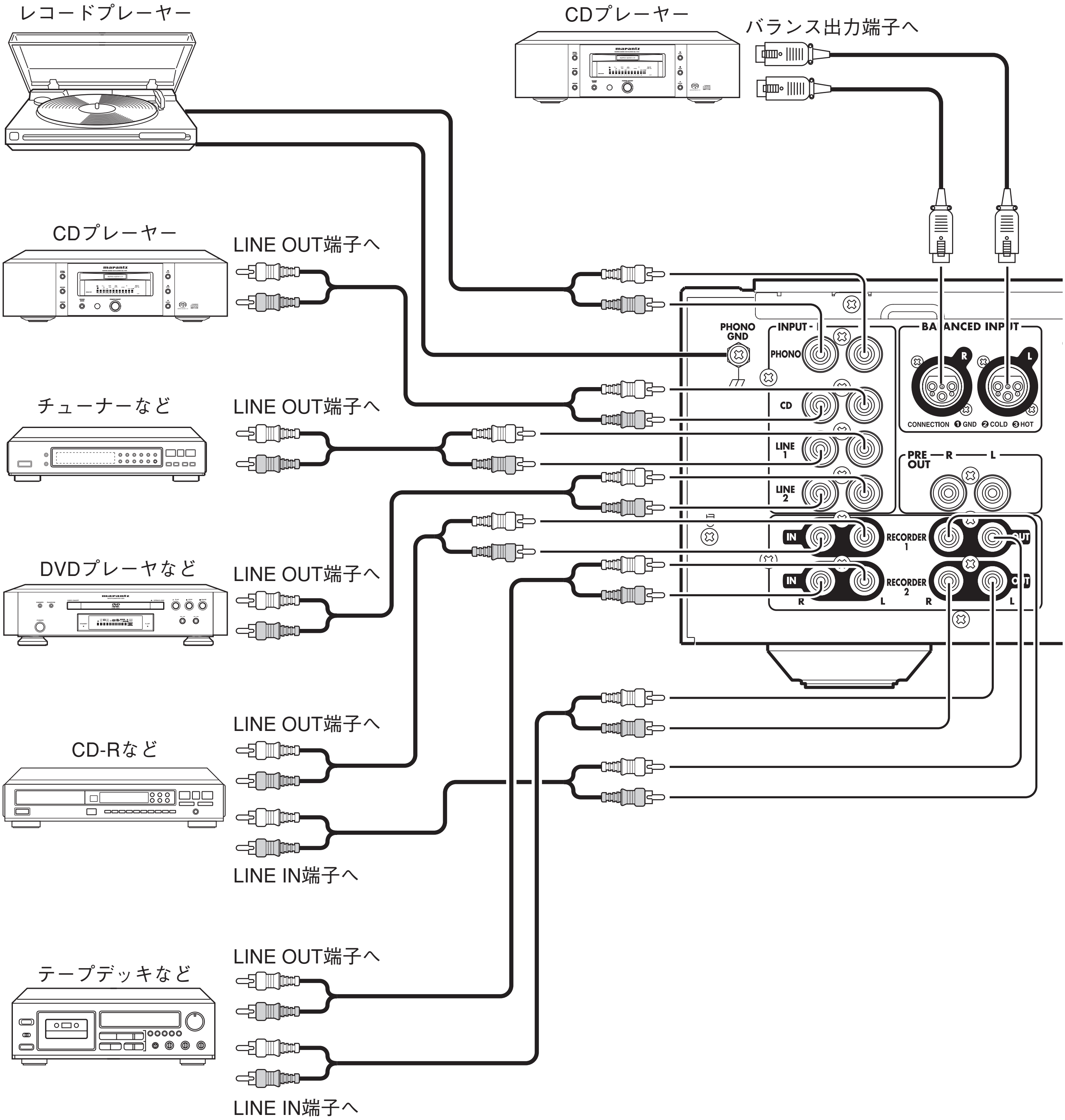
❿ SPEAKER SYSTEMS 出力端子
SPEAKER A と SPEAKER B の 2 系統のスピーカーシステムを接続することができます。前面パネルの SPEAKER A ボタンおよび SPEAKER B ボタンでスピーカー出力を ON/OFF することができます。

⓫ RECORDER 1/RECORDER 2 出力端子
テープデッキなどの録音入力端子と接続する端子です。
前面パネルの REC OUT ボタンで出力信号を ON/OFF することができます。

⓬ RECORDER 1/RECORDER 2 入力端子
テープデッキなど録音機器の出力端子に接続する端子です。

基本接続

オーディオ機器との接続



ご注意

- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L（左）チャンネルとR（右）チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はR（右）チャンネル、白い端子はL（左）チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続するそれぞれの機器については、それぞれの取扱説明書を参考にしてください。

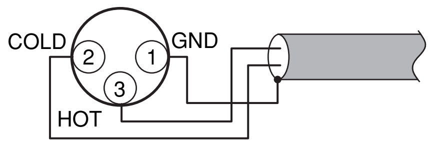
■ BALANCED 端子について

① 本機ではBALANCED端子に、プロフェッショナル用として広く採用されている、XLRコネクターを使用しています。その特長は以下のとおりです。

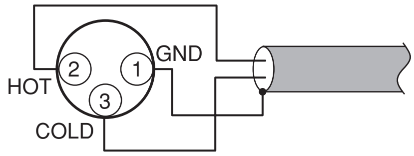
- 3ピン構造のため、音楽信号を平衡信号で伝送でき、外来ノイズの影響が少ない
- 着脱ロック機構のため、コネクター部のぐらつきが少なく、信頼性が高い

② XLRコネクターの接続方法は、プロフェッショナル用としてタイプが二通りあります。

1. USA方式（② PIN=COLD　③ PIN=HOT）



2. ヨーロッパ方式（② PIN=HOT　③ PIN=COLD）



③ 本機では、1.のUSA方式を採用しています。

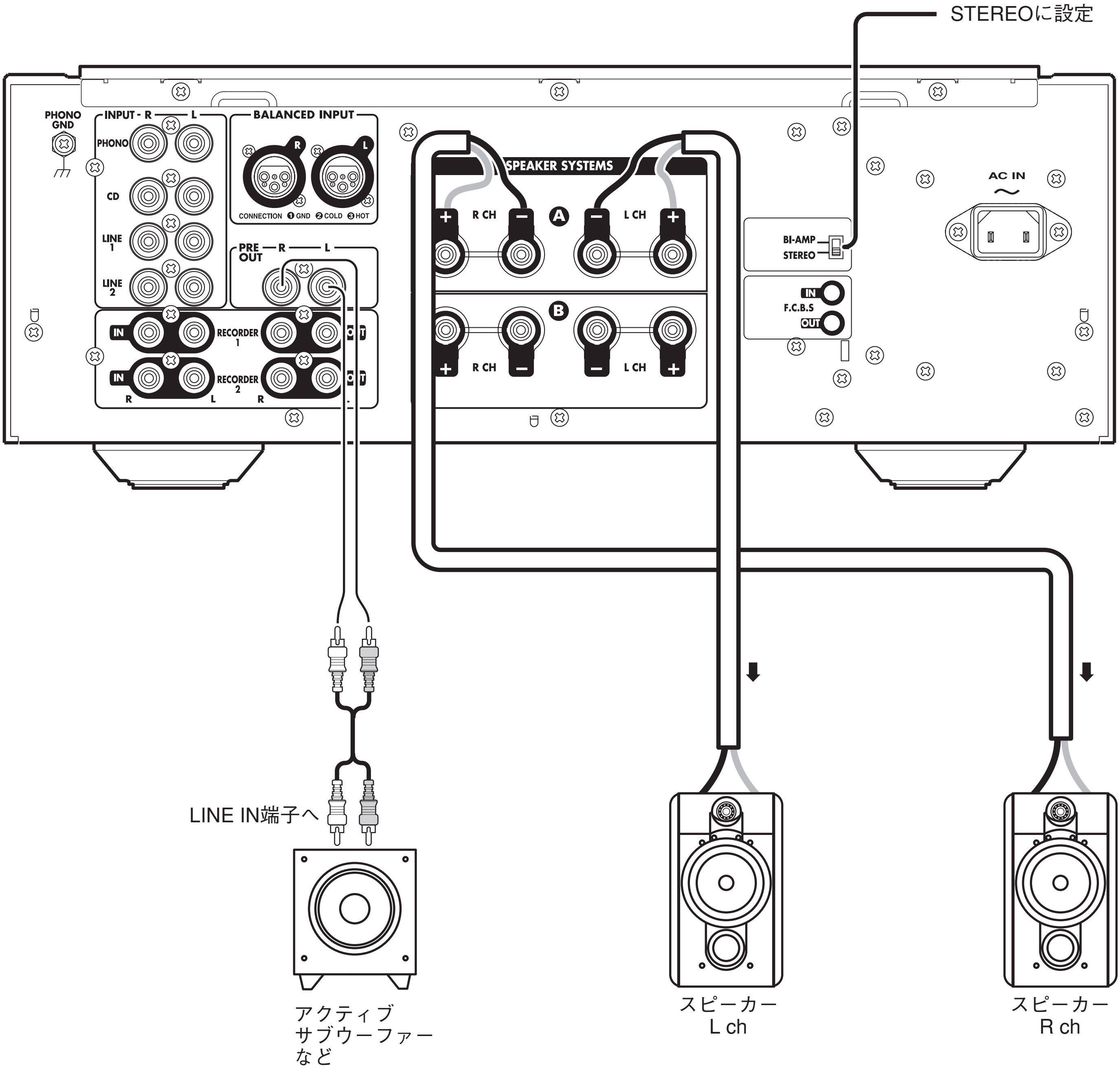
本機と、ヨーロッパ方式を採用している製品とをBALANCEDケーブルで接続すると、信号が逆位相になります。

信号の位相を正しくするには、片側のXLRコネクターの② PINと③ PINを逆になるようにつなぎ換えてください。

基本接続

スピーカーシステムとの接続

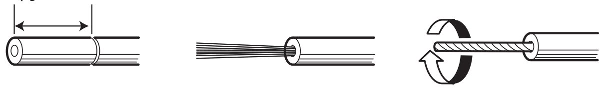
- アクティブサブウーファーなどをお使いになる場合は前面の PRE OUT ボタンを押し ON に設定してください。
- お使いになるスピーカーシステムは以下の条件を満たしていることが必要です。条件を満たしていない場合には、アンプの保護回路が動作し正しく再生できません。場合によってはアンプやスピーカーシステムが故障する恐れもあります。
  - 1 組のスピーカーシステムのみお使いになる時は、インピーダンスが 4 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。
  - 2 組のスピーカーシステムを同時にお使いになる時は、インピーダンスが 8 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。



■ スピーカーコードの接続について

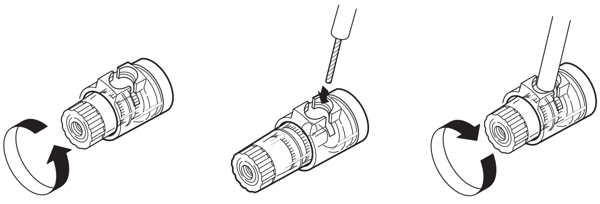
• スピーカーコードの被ふくは下図のように剥いでください。

約 1 cm



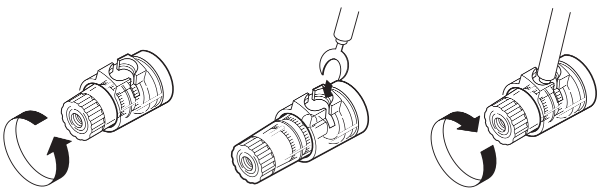
コードの端から約1cmくらいの所にカッターで切り込みをいれます　コードの端の被ふくをむきとります　芯線をよじります

• スピーカーコードとの接続



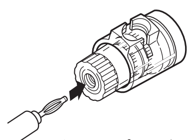
反時計方向に回し、ゆるめます　芯線を差し込みます　時計方向に回してしめます

• Y 型端子（ラグ）との接続



反時計方向に回し、ゆるめます　Yラグ端子を差し込みます　時計方向に回してしめます

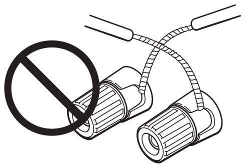
• バナナプラグとの接続



バナナプラグを差し込みます

ご注意

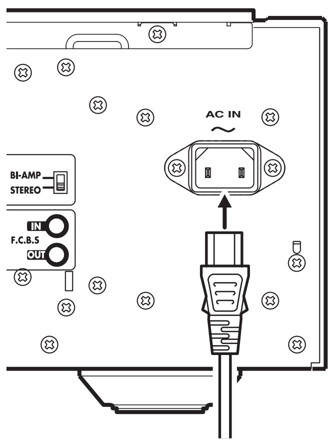
• 回路への損害を防止するため、裸のスピーカーコード同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。



• 感電の恐れがあるので、電源が ON のときはスピーカー端子に触れないでください。
• スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違えた場合、信号の位相は反転し、再生される音楽は不自然になります。

電源コードの接続

1. 付属の電源コードを本機の背面の電源コード接続端子に差し込んでください。



2. 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

万一の事故のため、本機から電源コードが外せる配置にしてください。

基本操作

再生のしかた

代表的な例としてスーパーオーディオ CD プレーヤーでディスク再生およびアナログレコードプレーヤーでレコード再生をする手順を説明します。
接続方法を参照し機器が正しく本機に接続されていることを確認してください。

■ スーパーオーディオ CD プレーヤーによるディスク再生

1. スーパーオーディオ CD プレーヤーの POWER ON/OFF スイッチを押して電源を投入します。

2. 続いて本機の POWER ON/OFF スイッチ ⑬ を押して電源を投入します。複数台を F.C.B.S 接続して連動動作させる場合は、ID 番号の若い機器から順番に電源を投入してください。

3. 本体の INPUT SELECTOR つまみ ①、またはリモコンの INPUT SERECT ボタン 1 で再生する入力ソースを選択します。

4. SPEAKER A の端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の SPEAKER A ボタン ④ を押して ON にしてください。

5. スーパーオーディオ CD プレーヤーにディスクを入れ、PLAY ボタンを押し再生します。

6. 本体の VOLUME つまみ ⑩、またはリモコンの VOLUME ▲/▼ ボタン 6 で音量を調整します。

7. お好みにより本体の TONE ボタン ③ またはリモコンの TONE ボタン 4 を押して低音 / 高音を調整してください。調整方法は BASS TRIM 調整のしかた（27 ページ）または TREBLE TRIM 調整のしかた（27 ページ）を参照してください。

8. お部屋の雰囲気に合わせてディスプレイとサイド照明を点灯 / 消灯することができます。本体の DISPLAY ボタン ② またはリモコンの DISPLAY ボタン 7 を押してください。

■ アナログレコードプレーヤーによるレコード再生

1. 本機の POWER ON/OFF⑬ スイッチを押して電源を投入します。複数台を F.C.B.S 接続して連動動作させる場合は、ID 番号の若い機器から順番に電源を投入してください。

2. 本体の INPUT SELECTOR つまみ ①、またはリモコンの INPUT SERECT ボタン 1 で PHONO を選択します。不意のアクシデントを防ぐため VOLUME つまみ ⑩ を回して音量を - ∞（最小）にしておくことをお勧めします。

3. お使いになるカートリッジに合わせて本体の PHONO MC ボタン ⑨ で MM か MC に設定してください。

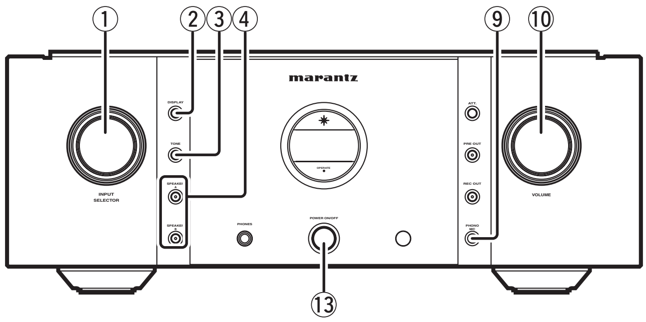
4. SPEAKER A の端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の SPEAKER A ボタン ④ を押して ON にしてください。

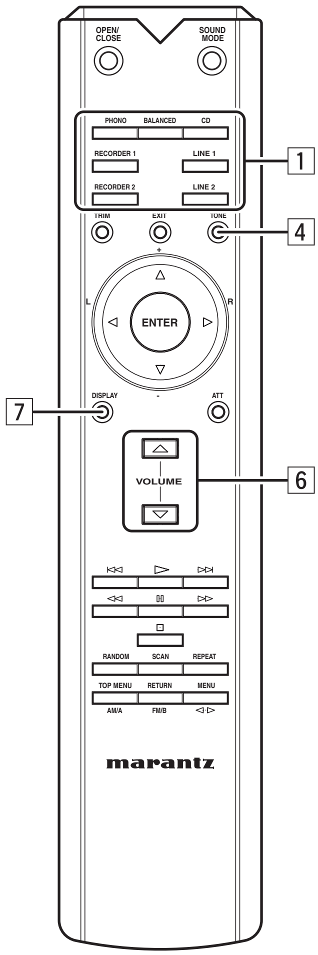
5. アナログレコードプレーヤーにレコードをセットしてレコードを再生します。

6. 本体の VOLUME つまみ ⑩、またはリモコンの VOLUME ▲/▼ ボタン 6 で音量を調整します。

7. お好みにより本体の TONE ボタン ③ またはリモコンの TONE ボタン 4 を押して低音 / 高音を調整してください。調整方法は BASS TRIM 調整のしかた（27 ページ）または TREBLE TRIM 調整のしかた（27 ページ）を参照してください。

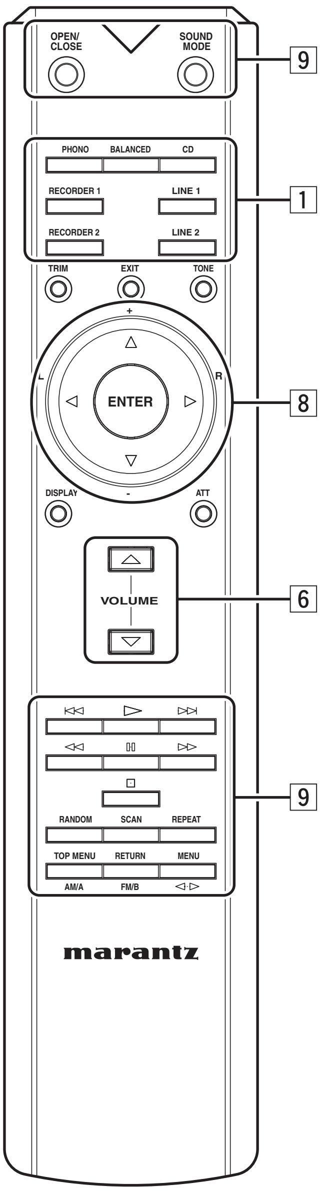
8. お部屋の雰囲気に合わせてディスプレイとサイド照明を点灯 / 消灯することができます。本体の DISPLAY ボタン ② またはリモコンの DISPLAY ボタン 7 を押してください。





リモコン操作

[8] と [9] はマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなど本機以外のマランツ製品の基本的な操作をするボタングループです。[1] の INPUT SELECT ボタンで選択した入力ソースにより、ボタンの機能はそれぞれの機器に対応した機能に変わります。



● マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーのリモコン操作

CD のボタンを押した時、[8] と [9] のボタングループは下表のように機能します。CD 入力端子にマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE	ディスクトレイのオープン／クローズ
SOUND MODE	スーパーオーディオ CD のサウンドモード選択 スーパーオーディオ CD ／ CD の選択
▶	プレイ（再生）
I◀◀	トラックスキップ（曲の始め / 前の曲へ戻る）
▶▶I	トラックスキップ（次の曲へ進む）
◀◀	早戻しサーチ
▶▶	早送りサーチ
II	ポーズ（一時停止）
■	ストップ（停止）
RANDOM	ランダム再生
SCAN	AMS 再生
REPEAT	リピート再生
TOP MENU/AM/A	使用できません
RETURN/FM/B	使用できません
MENU ◀▶	クイックリプレイの設定
ENTER	クイックリプレイ開始
▲ / ＋	使用できません
▼ / ー	使用できません
◀ / L	使用できません
▶ / R	使用できません

● マランツ製 DVD プレーヤーのリモコン操作

LINE 2 のボタンを押した時、[8] と [9] のボタングループは下記のように機能します。LINE 2 入力端子にマランツ製 DVD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

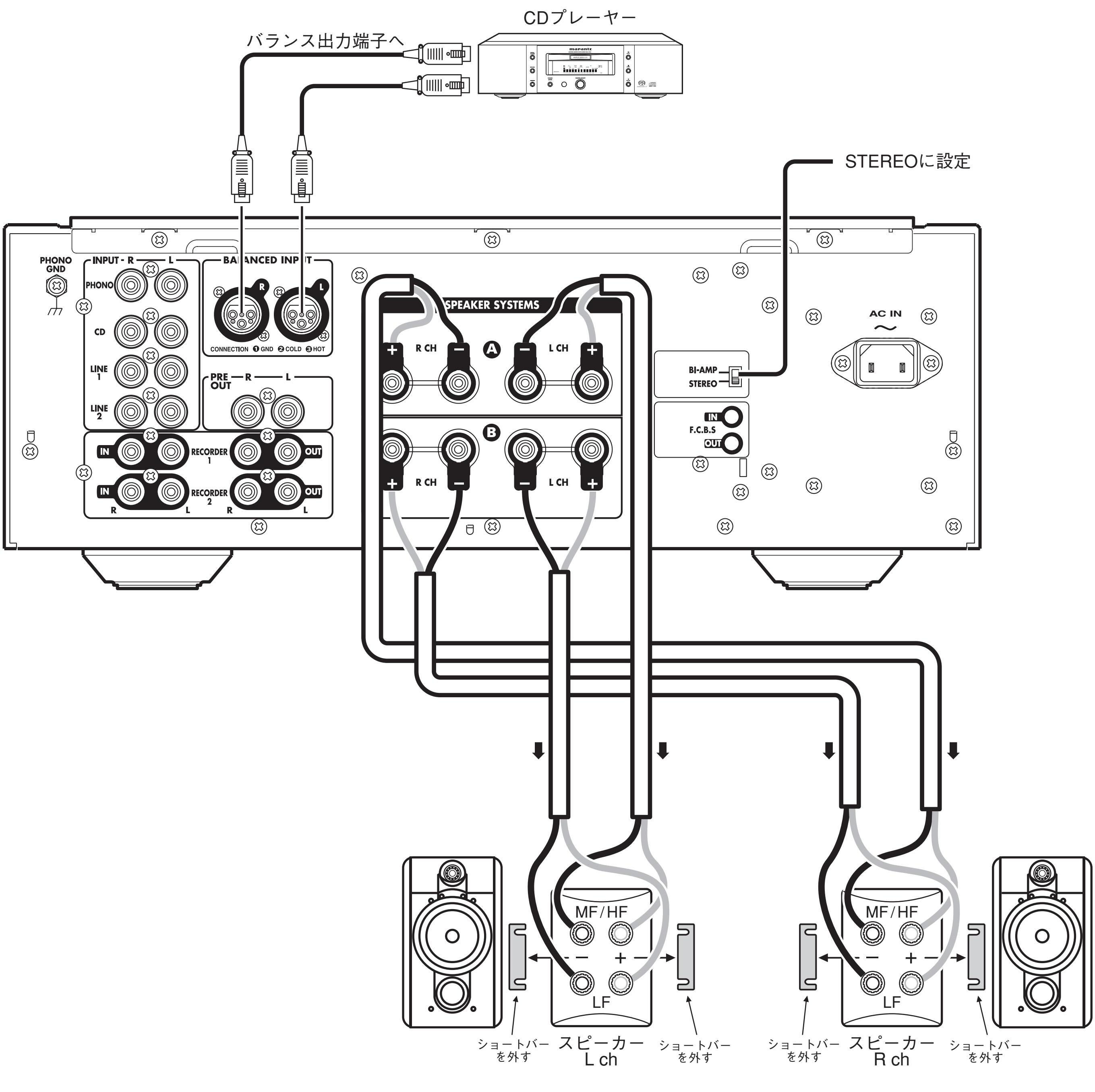
ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE	ディスクトレイのオープン／クローズ
SOUND MODE	音声切換え
▶	プレイ（再生）
I◀◀	トラックスキップ（曲の始め／前の曲へ戻る）
▶▶I	トラックスキップ（次の曲へ進む）
◀◀	早戻しサーチ
▶▶	早送りサーチ
II	ポーズ（一時停止）
■	ストップ（停止）
RANDOM	ランダム再生
SCAN	サーチの種類を選択
REPEAT	リピート再生
TOP MENU/AM/A	最初のメニュー画面を表示
RETURN/FM/B	前のメニュー画面に戻る
MENU ◀▶	メニュー画面を表示
ENTER	選択した項目を決定
▲ / ＋	カーソルを上に移動
▼ / ー	カーソルを下に移動
◀ / L	カーソルを左に移動
▶ / R	カーソルを右に移動

応用接続

バイワイヤー接続

バイワイヤー接続はスピーカーの低音用入力端子および中高音用入力端子を別々のスピーカーコードでアンプに接続する方法です。低音用と高音用のケーブルを分けることで、低音用スピーカーユニットで発生する逆起電力による中高音用スピーカーユニットへの干渉を少なくすることができます。

- バイワイヤー接続に対応していないスピーカーシステムをお使いの場合は SPEAKER A または SPEAKER B のどちらか一方に接続してください。
- バイワイヤー接続に対応したスピーカーシステムをお使いの場合は、前面の SPEAKER A と SPEAKER B のボタンの両方を ON に設定してください。



ステレオコンプリートバイアンプ接続

① 2 台を F.C.B.S. 接続し連動動作して使用します。**F.C.B.S. について**（24 ページ）を参照し、市販されているモノラルプラグ ⇔ モノラルプラグまたはステレオプラグ ⇔ ステレオプラグの接続をしてください。

② ID 番号は **ID 番号の設定のしかた**（25 ページ）を参照して設定してください。ID 1 のアンプを操作すると、ID 2 のアンプが連動します。

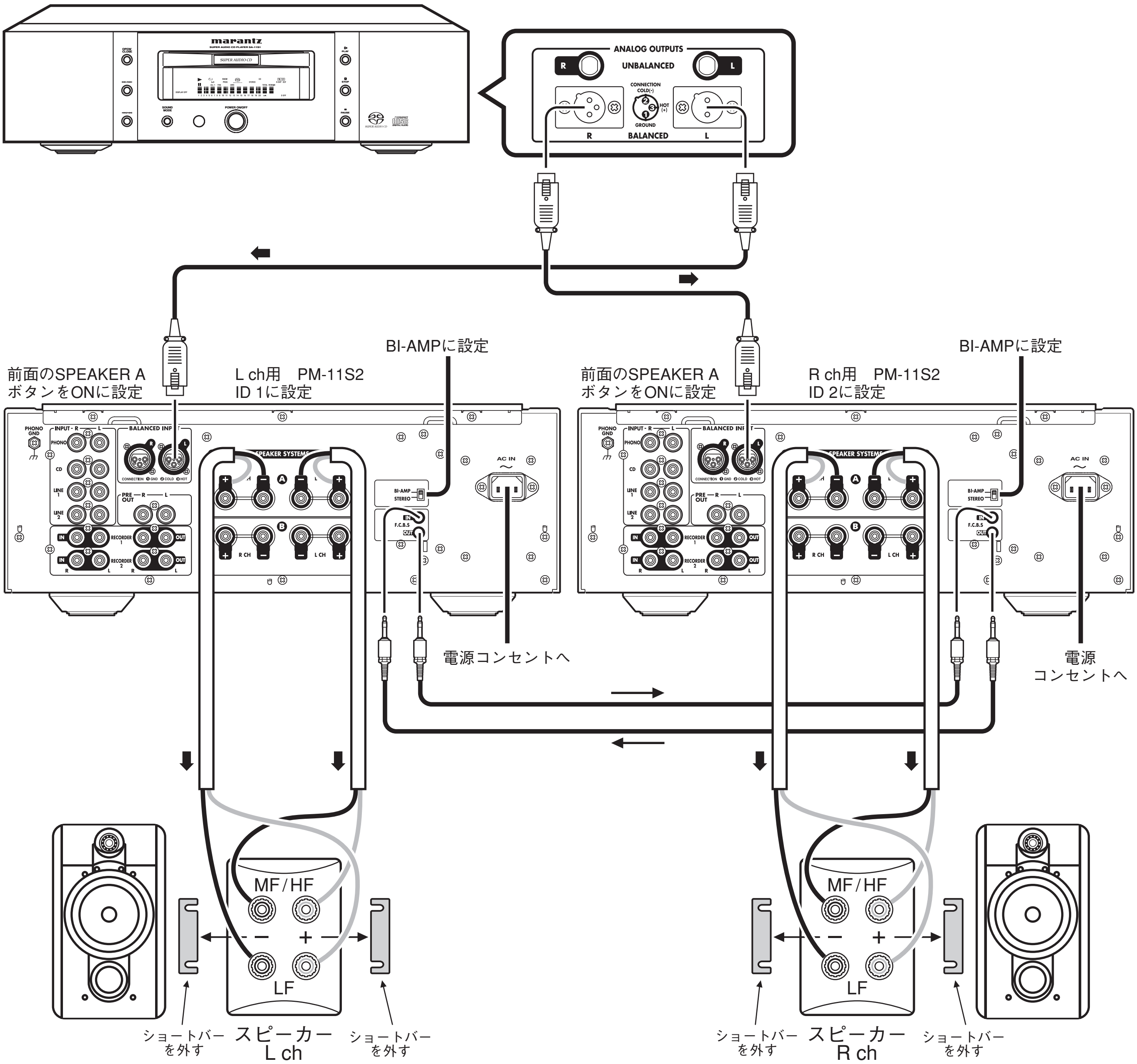
③ CD プレーヤーなどのアナログ出力を 2 台のアンプの L ch 入力端子に接続します。
2 台のアンプは BI-AMP モードでモノラル・アンプとして動作しますので、PM-11S2 の各入力端子の R チャンネルは使用しません。

● コンプリートバイアンプについて

マランツが提唱する音質向上の上級テクニックで、プリアンプ部から中高音用と低音用のアンプを分離独立し、中高音と低音の干渉を極限まで減らすことができます。これにより、広大な音場空間の再現を可能にします。

ご注意

コンプリート・バイアンプ接続できるスピーカーシステムはバイアンプ接続に対応している必要があります。接続する前にスピーカーシステムの取扱説明書でご確認、または製造メーカーにお問い合わせください。



各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

■ スーパーオーディオ CD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置について

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連合）が定めた規格である 「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をお勧めします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置の時に最良となるようにレコーディングやミキシングがされています。

- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は 5 チャンネル（3 ～ 6 も可能）が基本で、6 チャンネル目として LFE（サブウーファー用）が記録されていることもあります。

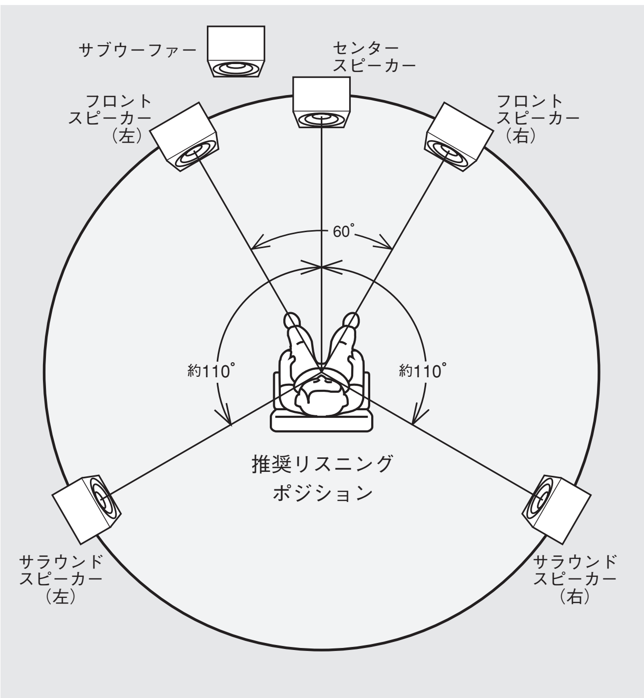
  記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数は、フロント側 3 本、サラウンド（リア）側 2 本、の同タイプ 5 本が基本です。

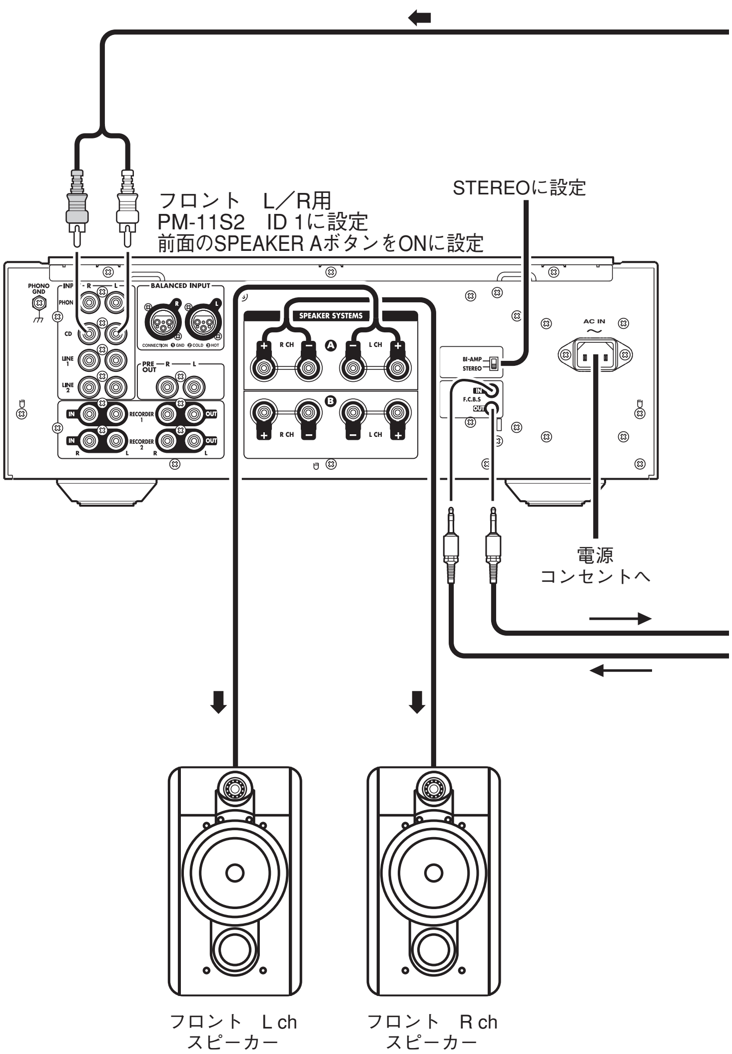
  下図のように、フロント（左右）、センター、サラウンド（左右）の各スピーカーシステムはリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。

  スピーカーシステムの大きさが異なる時は、アンプ側で各チャンネルの音量を調整してください。
- 図中のサブウーファーの配置は説明のため、仮に配置したものです。サブウーファーはお部屋の環境に合わせて配置してください。 サブウーファーの接続や設定方法は、その取扱説明書をお読みください。

● ITU（国際電気通信連合）

ITU は「International Telecommunication Union（国際電気通信連合）」の略で、国際連合（UN）の専門機関の一つです。ITU-R はその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。
また勧告書の ITU-R BS は“放送業務（音声）”に関する規格で、ITU-R BS.775-1 はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」 について定められた規格です。





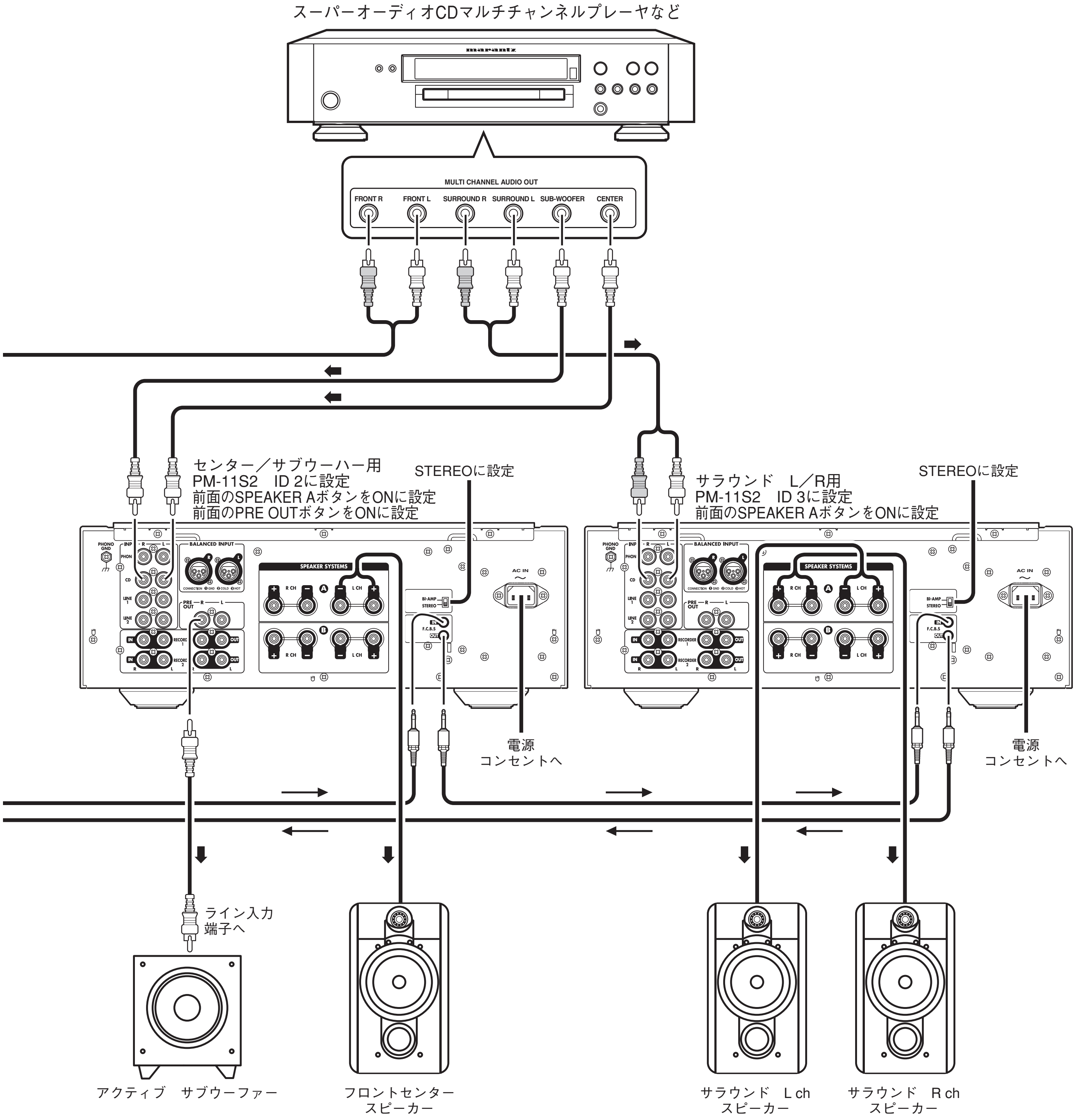
5.1ch マルチチャンネル再生をする基本的な接続

① 本機 3 台を使って F.C.B.S. 接続し連動動作させて使用します。**F.C.B.S. について**は 24 ページを参照し、市販の接続コードを 3 本用意してください。

② 3 台のアンプの ID 番号を **ID 番号の設定のしかた**（25 ページ）を参照して、設定してください。
ID 1 のアンプを操作すると、ID2 と ID3 のアンプが連動して動作します。

③ 5.1 チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ 3 台のアンプに接続します。

④ アクティブサブウーハーを使用する場合は、アクティブサブウーハーの取扱説明書を参照してください。

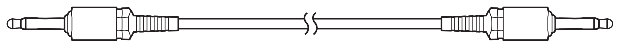


F.C.B.S. について

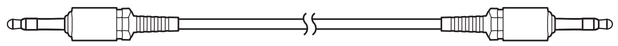
F.C.B.S.（フローティング･コントロール･バス･システム）は最大 4 台までを専用のバスラインで結び、双方向データ通信により連動動作する通信システムです。

F.C.B.S. 接続をするには、市販されている両端がミニプラグのオーディオ接続用コードを、接続する PM-11S2 の台数分ご用意ください。接続コードは下記 2 種類のどちらでもかまいません。

● モノラルミニプラグ⇔モノラルミニプラグの接続コード



● ステレオミニプラグ⇔ステレオミニプラグの接続コード



ご注意

抵抗入りの接続コードは使用できませんのでご注意ください。

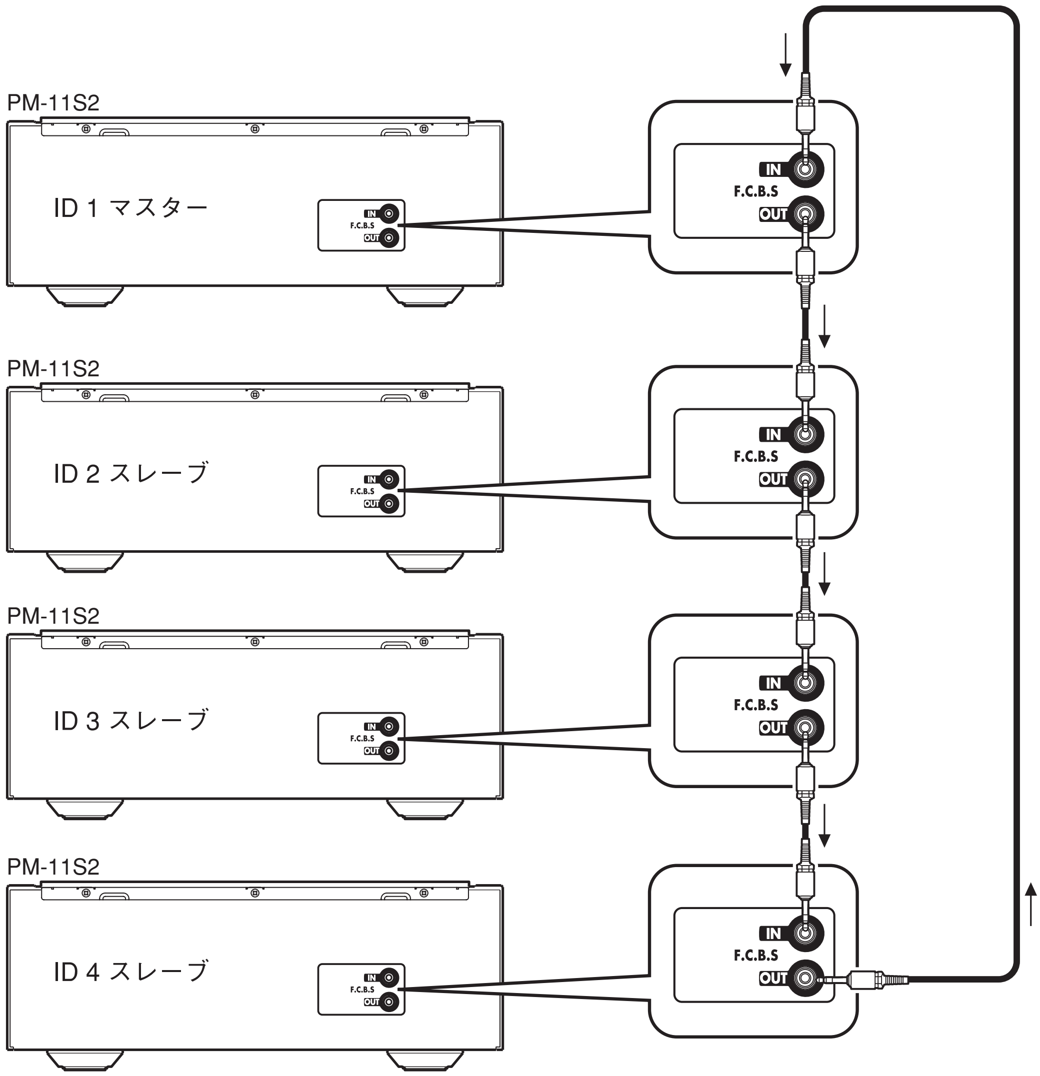
下図は 4 台の PM-11S2 をF.C.B.S. 接続した例です。1 番上の ID 番号 1 のアンプがマスターとなり、ID 番号 2 ～ 4 のスレーブ機器 3 台全てをコントロールします。
マスターを操作するとスレーブは入力ソース、音量、ATT 機能、ディスプレイ、トーンコントロール ON/OFF の機能がマスターに連動します。

本機を 2 台使ったコンプリートバイアンプ（21 ページ）、3 台使った 5.1ch マルチチャンネル（23 ページ）など多彩な用途で使用することができます。

ご注意

PM-11S2 の F.C.B.S. 機能は、PM-11S2 同士間でのみ有効です。当社の他機種（PM-13S1 等）との接続では正常に動作しない場合があります。

F.C.B.S. 接続した複数台のアンプの電源を ON/OFF する場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源を ON にして、ID 番号の大きいアンプから順に電源を OFF してください。



応用操作

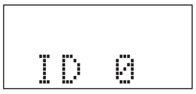
ID 番号の設定のしかた

本機をステレオアンプとして 1 台で単独使用する場合は ID 番号を“0” に設定してください（お買い上げ時は“0” に設定されています）。

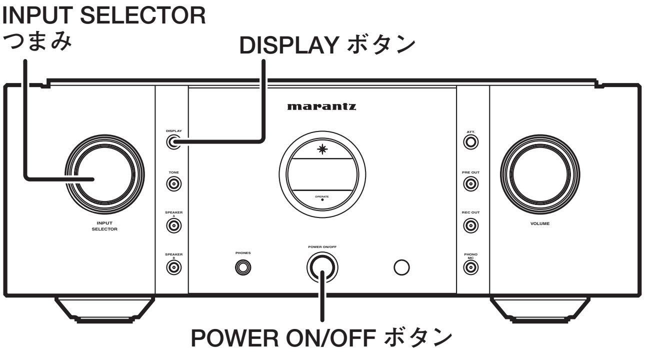
ご注意

ID 番号が “0” 以外では単独使用できません。

ID 番号は電源投入するとディスプレイに約 3 秒間表示されます。

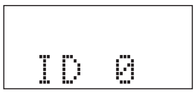


複数台接続して連動動作させる場合は、それぞれのアンプを識別するために ID 番号を設定します。
複数台を集中コントロールするアンプの ID を“1” に設定します。ID “1”に設定したアンプを「マスター」と呼びます。
「マスター」に連動して動作するアンプを「 スレーブ 」と呼び、ID 番号が重複しないように“2”〜“4”の ID 番号を設定します。

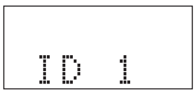


次の手順で ID 番号を設定してください。

1. DISPLAY ボタンを押しながら POWER ON/OFF スイッチを押します。



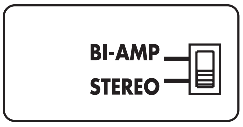
2. INPUT SELECTOR つまみを回して ID 番号を選択します。



設定が終了したら電源を OFF してください。電源を再投入すると設定が有効になり、この設定は記憶されます。

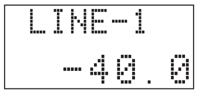
BI-AMP モードについて

本機を 2 台使用して、コンプリートバイアンプ接続をするための BI-AMP（バイアンプ）モードを搭載しています。
コンプリートバイアンプはマランツが提案した音質を向上させる上級テクニックです。バイアンプ対応のスピーカーシステムをプリアンプ部から分離し、高音／低音それぞれのスピーカーユニットをドライブするものです（21 ページ接続例も合わせて参照してください）。

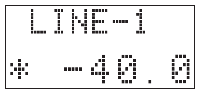


リアパネルのモードスイッチを BI-AMP にするとバイアンプモードになります。
バイアンプモードは、L チャンネルに入力された信号がインプットセレクター部から左右のボリュームアンプに伝送され、PRE OUT 端子に出力されます。
下図はステレオモードとバイアンプモードの表示例です。

ステレオモード



バイアンプモード



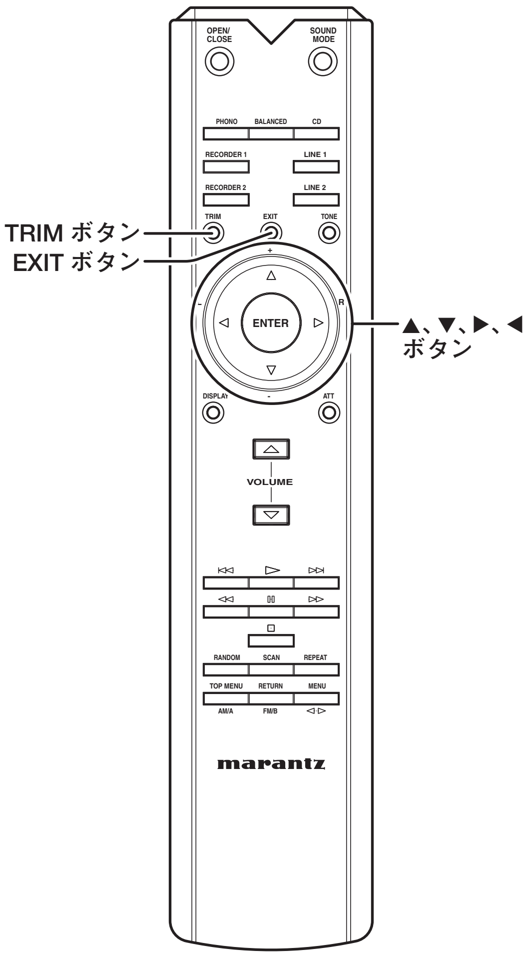
ご注意

- バイアンプモード時は R チャンネルの入力端子は使用できません。
- バイアンプモード時は L チャンネルに入力された信号が両方のチャンネルに出力されるため、RECORDER OUT、PRE OUT、PHONES OUT は L チャンネル、R チャンネル共に同じ信号が出力されます。
- MODE スイッチは必ず電源を OFF した状態で切換えてください。電源を再投入することで設定が有効になります。

LEVEL TRIM 調整のしかた

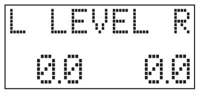
レベルトリム調整とは左右の音量バランスを調整する機能です。
レベルトリム調整はリモコンで操作します。

TRIM ボタン ： トリム調整の開始およびトリム調整するアンプを選択します。複数台を連動して使用している場合は、ID 番号の小さいアンプの順にトリム調整を行います。
EXIT ボタン ： トリム調整の終了
▲ ： トリムレベルを上げるカーソルボタン
▼ ： トリムレベルを下げるカーソルボタン
▶ ： R チャンネル選択するカーソルボタン
◀ ： L チャンネル選択するカーソルボタン
ENTER ： LEVEL、BASS、TREBLE のトリム調整モードを選択します。

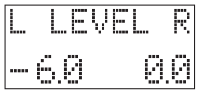


左右の音量を 0.5dB ステップで 0.0dB から－ 9.0dB の範囲で調整することができます。工場出荷時は 0.0dB（最大）に設定されています。

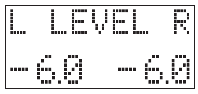
1. TRIM ボタンを 1 回押すとレベルトリムモードになります。



2. 点滅している左側の“0.0”は L チャンネルのレベルが調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで L チャンネルのレベルを設定します。



3. ▶ を押すと右側の“0.0”が点滅します。点滅している右側の“0.0”は R チャンネルのレベルが調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで R チャンネルのレベルを設定します。



4. 引き続き ID“2”（スレーブ）のレベルを調整する場合はもう一度 TRIM ボタンを押して上記の 1 ～ 3 の手順でレベルを設定してください。もう一度 TRIM ボタンを押すと同様に ID“3”の調整ができます。

5. レベル調整を終了する場合は EXIT ボタンを押してください。

BASS TRIM 調整のしかた

左右の低音を 2dB ステップで -8dB ～ +8dB の範囲で調整することができます。お買い上げ時は 0dB に設定されています。バストリム調整をする場合は本体またはリモコンの TONE ボタンを押しトーンコントロールを ON にしてください。

1. TRIM ボタンを 1 回押すとレベルトリムモードになります。

```
L LEVEL R
 0.0  0.0
```

2. 続いて ENTER ボタンを 1 回押すとバストリムモードになります。

```
L BASS  R
 0      0
```

3. 点滅している左側の“0”は L チャンネルの低音を調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで L チャンネルの低音を設定します。

```
L BASS  R
+6      0
```

4. ▶ を押すと右側の“0” が点滅します。点滅している右側の“0”は R チャンネルの低音が調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで R チャンネルの低音を設定します。

```
L BASS  R
+6     +6
```

5. 引き続き ID“2”（スレーブ）のレベルを調整する場合はもう一度 TRIM ボタンを押して上記の 1 ～ 3 の手順で低音を設定してください。もう一度 TRIM ボタンを押すと同様に ID“3”の低音の調整ができます。

6. 低音の調整を終了する場合は EXIT ボタンを押してください。

TREBLE TRIM 調整のしかた

左右の高音を 2dB ステップで -8dB ～ +8dB の範囲で調整することができます。お買い上げ時は 0dB に設定されています。トレブルトリム調整をする場合は本体またはリモコンの TONE ボタンを押しトーンコントロールを ON にしてください。

1. TRIM ボタンを 1 回押すとレベルトリムモードになります。

```
L LEVEL R
 0.0  0.0
```

2. 続いて ENTER ボタンを 2 回押すとトレブルトリムモードになります。

```
L TREBL R
 0      0
```

3. 点滅している左側の“0”は L チャンネルの高音を調整できることを示しています。▲ または ▼ で L チャンネルの高音を設定します。

```
L TREBL R
+6      0
```

4. ▶ を押すと右側の“0” が点滅します。点滅している右側の“0”は R チャンネルの高音が調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで R チャンネルの高音を設定します。

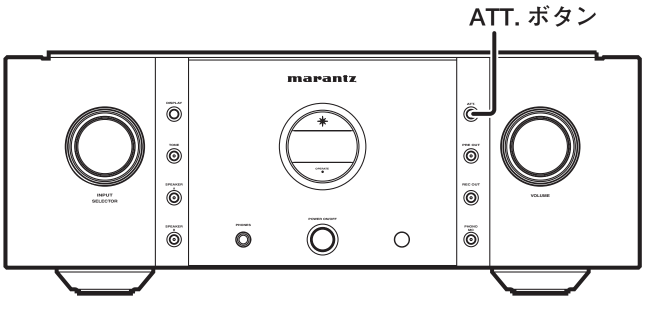
```
L TREBL R
+6     +6
```

5. 引き続き ID“2”（スレーブ）のレベルを調整する場合はもう一度 TRIM ボタンを押して上記の 1 ～ 3 の手順で高音を設定してください。もう一度 TRIM ボタンを押すと同様に ID“3”の高音の調整ができます。

6. 高音の調整を終了する場合は EXIT ボタンを押してください。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

ATT.(アッテネーター)機能



ATT. はワンタッチで音量を絞る機能です。
本体またはリモコンの ATT. ボタンを押すと、音量が減衰します。

1. 本体またはリモコンの ATT. ボタンを押すと、ATT の文字が点滅する表示に変わり、音量が小さくなります。
もう一度 ATT. ボタンを押すかボリュームをアップダウンするとアッテネーターが解除し、元の音量に戻ります。

```
LINE-1
  ATT
```

2. ボリュームが－∞（最小）になっている時に ATT. ボタンを押すと約 3 秒間下の図のように表示が変わり、アッテネーターは動作しません。

```
LINE-1
  MIN
```

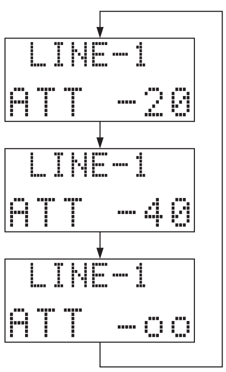
■ 減衰量の設定のしかた

減衰量の設定は本体の ATT. ボタンのみ可能です。
減衰量は－ 20dB、－ 40dB、－∞のいずれかを設定することができます。
工場出荷時の減衰量は－ 20dB に設定されています

1. 本体の ATT. ボタンを 2 秒以上押します。
ディスプレイは減衰量表示に変わります。

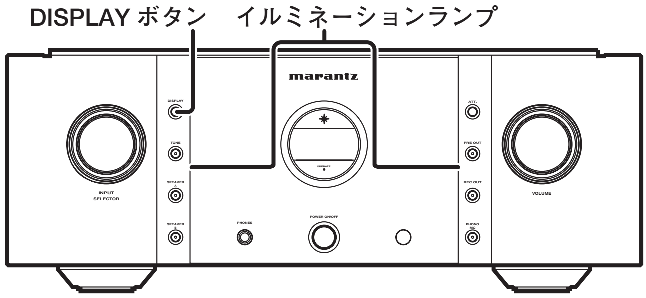
```
LINE-1
ATT  -20
```

2. 本体の ATT. ボタンを押す度に減衰量の設定値が変わります。



3. 希望する減衰量表示の状態で約 2 秒間操作がなければ減衰量が確定します。確定するとディスプレイは音量表示に戻ります。

イルミネーションランプの設定のしかた



イルミネーションランプは連動点灯モード（お買い上げ時）と常時消灯モードを選択することができます。
連動点灯モード時はディスプレイに連動して点灯／消灯します。

1. イルミネーションランプが点灯している状態で DISPLAY ボタンを 3 秒以上押すとイルミネーションランプは消え、常時消灯モードに設定されます。

2. 常時消灯モードを解除してイルミネーションランプを点灯させるには、もう一度 DISPLAY ボタンを 3 秒以上押します。

困ったときは

困ったときは下記の項目をチェックしてください。意外な操作ミスで故障と思われていることがあります。
下記の項目をチェックしても直らない場合は、お近くの営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

現象	原因	処置
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードの接続を点検してください。
	保護回路が動作している。	OPERATE インジケーターが点滅している場合は一旦電源を切り、1 分以上待ってからもう一度電源を入れてください。
電源は入るがスピーカーから音が出ない。	スピーカーの接続が不完全である。	スピーカーの接続を点検してください。
	入力コードの接続が不完全である。	入力コードの接続を点検してください。
	プレーヤー（再生機器）などの使用方法を間違っている。	プレーヤーの取扱説明書で使用方法を確認してください。
	インプットセレクターつまみの位置が不適当である。	インプットセレクターつまみを正しい位置に合わせてください。
	ボリュームつまみが絞ってある。	ボリュームつまみを調節してください。
	スピーカーボタンが OFF になっている。	スピーカーボタンを接続したスピーカー端子の位置に正しく合わせてください。
	ATT. ミュート機能が動作している。	表示部に“ATT” が表示されているときは、本体またはリモコンの ATT. ボタンを押すかボリュームアップをアップダウンさせてアッテネーター機能を解除してください。
	保護回路が動作し自動的に音量を絞った状態になっている。	もう一度音量を調整してください。
	エラーメッセージが表示されている。	エラーメッセージについて（30 ページ）の表を参照して、ID 番号を正しく設定してください。
片側のスピーカーからしか音が出ない。または音の大きさが異なる。	スピーカーの接続が不完全である。	スピーカーの接続を点検してください。
	左右の音量調整（LEVEL TRIM）、音質調整（BASS ／ TREBLE）の設定値が左右で異なっている。	もう一度トリム調整をしてください。
左右の音が入れ替わっている。	左右のスピーカーまたは左右の入力コードの接続が逆になっている。	正しく接続しなおしてください。
音がステレオにならない。	後面の MODE スイッチが“BI-AMP”に設定されている。	いったん電源を切り MODE スイッチを“STEREO” に設定して電源を再投入して正しく設定してください。
レコード演奏中にノイズが出る。または音が出ない。	レコードプレーヤーからのアース線が外れている。	PHONO GND 端子への接続を点検してください。
	PHONO 入力端子の接続が不完全である。	PHONO 入力端子の接続を点検してください。
	レコードプレーヤーの近くにテレビなどがあり影響を受けている。	設置位置を変えてみてください。
	お使いになるカートリッジに合わせて前面の PHONO MC ボタンが正しく設定されていない。	正しく設定してください。
レコード演奏中に音量を上げるとハウリング現象を起こす。	レコードプレーヤーとスピーカーが近すぎる。	できるだけスピーカーと離して設置してください。
	レコードプレーヤーの台や床が振動しやすい。	レコードプレーヤーにインシュレーターがない場合は市販のインシュレーターを使用してください。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
困ったときは
その他

■ 保護回路について

本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。
保護回路が動作すると直ぐにミューティング機能が働きます。この時ディスプレイパネルに"PROTECT"の文字が点滅しOPERATEインジケーターも点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切って約1分後に再投入してください。

● 電源投入時

電源投入時アンプ回路が安定するまでの約8秒間、保護回路が働きミューティング状態になります。その後、アンプの回路が安定すると保護回路を解除し音が出る状態になります。

● 過大な電流が流れたとき

過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れたときやインピーダンスが4Ω未満のスピーカーシステムを接続して使用したときなど、設定以上の過電流を検出した場合に保護回路が働きます。誤ってスピーカーコードをショートしたときにも保護回路が働きます。
このとき表示部にPROTECTの文字が点滅して自動的にボリュームを下げます。そして約8秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。
また、過大な電流が流れ続けた場合は、アンプの電源をOFFし、OPERATEインジケーターが点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切って約1分後に再投入してください。

● 過大な超低域の信号が入力されたとき

設定以上の過大な超低域信号が入力された場合も保護回路が働きます。このときOPERATEインジケーターが点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約8秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。また、過大な超低域信号の入力が続いた場合やアンプの故障により直流電圧が検出された場合は、アンプの電源をOFFし、OPERATEインジケーターが点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切って約1分後に再投入してください。

● メインアンプが加熱したとき

過大な信号を入力された状態で連続使用した場合などメインアンプ部の温度が設定以上の温度になると保護回路が働きます。また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や狭いラックに入れての使用した場合にも設定以上の温度になると保護回路が働きます。このときOPERATEインジケーターが点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約8秒後に保護回路は解除しますので音量を再調整してください。
保護回路が動作してから一定時間内に温度が下がらなければ、アンプの電源をOFFし、OPERATEインジケーターが点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切ってアンプの温度が冷えるのを待って再投入してください。

● アンプが故障したとき

アンプの電源回路に異常を検出した場合は保護回路が働きアンプの電源を自動的にOFFします。また、内部のヒューズが切れた場合も保護回路が働きアンプの電源をOFFします。このときOPERATEインジケーターが点滅します。
一旦電源を切って数分待ってから再投入してください。再投入してもディスプレイが点灯せずOPERATEインジケーターが点滅している状態の場合は本機が故障していることが予測されます。

■ エラーメッセージについて

本機を複数台使用してF.C.B.S.連動動作をした場合、ディスプレイに下表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合はID番号の設定やリモートケーブルの接続に問題がありますので、下表を参考にしてID番号やリモートケーブルの接続を確認してください。ID番号の設定は**ID番号の設定のしかた**（25ページ）を参照してください。

<table>
<tr><th></th><th>表示</th><th>意味</th><th>対策</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ERROR 02</td><td>ID番号2のアンプが重複しています。</td><td rowspan="3">ID番号が重複しないようにID番号を設定してください。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ERROR 03</td><td>ID番号3のアンプが重複しています。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ERROR 04</td><td>ID番号4のアンプが重複しています。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ERROR 11</td><td>ID番号2～4のアンプがID番号1のアンプと通信できません。</td><td>ID番号1のアンプに電源が入っていない場合は電源を入れてください。
リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ERROR 12</td><td>ID番号1のアンプがID番号2～4のアンプと通信できません。</td><td>ID番号1のアンプが重複している場合はID番号を正しく設定してください。
リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。</td></tr>
</table>

その他

仕様・外観寸法図

定格出力(20Hz〜20kHz両ch同時駆動)
…… 100W x 2(8Ω負荷)
…… 200W x 2(4Ω負荷)

全高調波歪率(20Hz〜20kHz両ch同時駆動、8Ω負荷)
…… 0.01%

出力帯域幅(8Ω負荷、0.05%) …… 5Hz〜50kHz

周波数特性(CD、1W、8Ω負荷) …… 5Hz〜120kHz±3dB

ダンピングファクター(8Ω負荷、20Hz〜20kHz) …… 100

入力感度/入力インピーダンス
- PHONO(MC) …… 270μV/100Ω
- PHONO(MM) …… 3mV/47kΩ
- BALANCED …… 480mV/40kΩ
- CD/LINE …… 240mV/20kΩ

出力電圧/出力インピーダンス
- PRE OUT …… 1.9V/220Ω

PHONO最大許容入力(1kHz)
- MC …… 12mV
- MM …… 130mV

RIAA偏差(20Hz〜20kHz) …… ±0.5dB

S/N比(IHF Aネットワーク、1W、8Ω負荷)
- PHONO(MC) …… 76dB(0.5mV入力)
- PHONO(MM) …… 90dB(5mV入力)
- BALANCED …… 95dB(1V入力)
- CD/LINE …… 96dB(500mV入力)

トーンコントロール ……
- BASS(50Hz) …… ±8dB
- TREBLE(20kHz) …… ±8dB

電源電圧 …… AC100V、50/60Hz

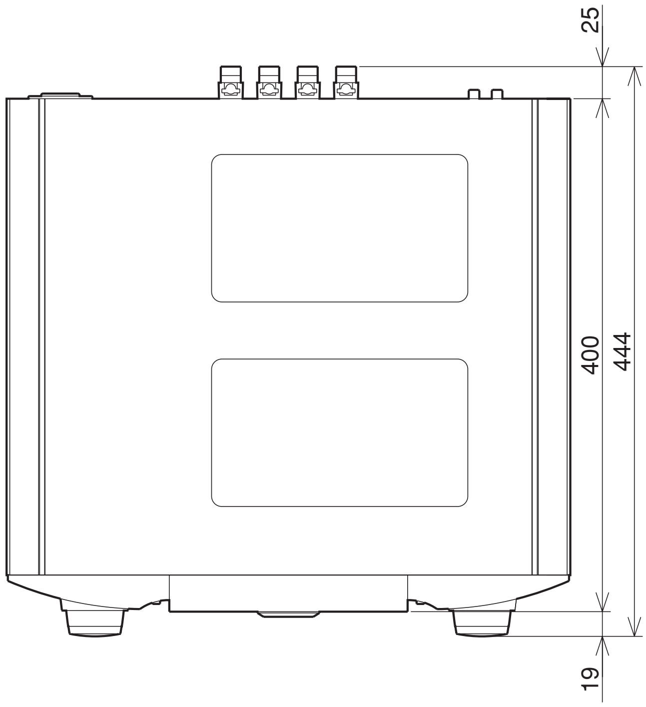
消費電力
- (J60065) …… 300W

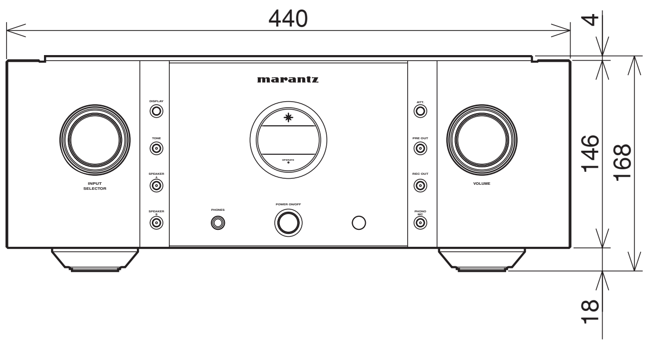
付属品
- リモコン …… 1
- 単4乾電池 …… 2
- 電源コード …… 1

最大外形寸法(本体)
- 幅 …… 440mm
- 高さ …… 168mm
- 奥行き …… 444mm

質量(本体) …… 26.6kg

本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。





■ お手入れ

- 本機が汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を5～6倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

■ ステレオ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



■ ヘッドホンのご使用について

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないよう注意してください。

■ 保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
   保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より1年間です。
   お買い上げ販売店又は当社サービスセンターで保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理について。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または当社サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度“困ったときは”をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1） 品名　**インテグレーテッドアンプ**
2） 品番　**PM-11S2**
3） シリアルナンバー（製造番号）
4） お買い上げ日　年　月　日
5） 故障の状況（できるだけ具体的に）
6） ご住所
7） お名前
8） 電話番号

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in Japan

08/2008　541110120012M　mzh-g